

## 滋賀県内企業動向調査

### ～2021年10-12月期の実績見込みと22年1-3月期の見通し～

# 景況感は20年4-6月期以来、1年半ぶりに悪化

(株)滋賀銀行のシンクタンクである(株)しがぎん経済文化センター(大津市、取締役社長北川 正義)では、県内企業の景況感を調査するために「滋賀県内企業動向調査」を四半期ごとに実施しています。このほど2021年10-12月期分の調査結果をまとめましたので、公表いたします。

#### 【調査の概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査(2021年10-12月期)
- ・調査時期：2021年11月4日～30日
- ・調査方法：郵送またはFAXによる配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業895社
- ・回答数：300社(有効回答率34%)うち製造業134社、非製造業166社
- ・分析手法：DI(ディフュージョン・インデックス)  
 =「増加(かなり良い・やや良い・上昇・過剰等)」の回答割合から、  
 「減少(かなり悪い・やや悪い・低下・不足等)」の回答割合を引いた指数を採用

#### 【調査結果の要旨】

##### 1. 現在の業況判断(P2～4)

- ・今回調査(21年10-12月期)での自社の業況判断DIは-16で、前回(21年7-9月期)の-12から4ポイント低下した。新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の緊急事態宣言などが9月末で全面解除されたものの、その悪影響が長引き、全国で初めて緊急事態宣言が発出された20年4-6月期以来、1年半ぶりに景況感は悪化した。
- ・製造業は、前回の-6から3ポイント上昇の-3で、3四半期連続で回復した。一般機械(+15→+33)などでプラス幅が拡大し、木材・木製品(-14→+67)や化学(-10→+18)はマイナス水準からプラス水準に転じ、食料品(-60→-33)や繊維(-54→-35)はマイナス幅が縮小した。
- ・非製造業は、前回の-17から9ポイント低下の-26で、6四半期ぶりの悪化となった。運輸・通信(+8→+10)以外のすべての業種で前回から低下。小売(-25→-64)や卸売(-40→-46)など、多くの業種でマイナス幅が拡大した。
- ・3カ月後(22年1-3月期)は、製造業が2ポイント上昇の-1、非製造業が10ポイント上昇の-16、全体では7ポイント上昇の-9となり、マイナス幅は縮小する見通し。

##### 2. その他の判断項目(P5～8)

- ・売上DI(+12→-4)は前回から16ポイント低下し、3四半期ぶりのマイナス水準。
- ・経常利益DI(+7→-11)は同18ポイント低下、2四半期ぶりのマイナス水準。
- ・製・商品の在庫DI(-2→+1)は3ポイント上昇。
- ・販売価格DI(+9→+10)は1ポイント上昇。
- ・仕入価格DI(+46→+53)は7ポイント上昇し、08年7-9月期(+64)に次ぐ高水準。
- ・生産・営業用設備DI(0)は横ばい。
- ・雇用人員DI(-18→-25)は7ポイント低下し、5四半期連続のマイナス水準で不足感が強い。業種別にみると、製造業は2ポイント低下の-19、非製造業も11ポイント低下の-29となった。新型コロナの新規感染者数の減少に伴い、特に非製造業で不足感が増している。

##### 3. 設備投資の実施状況(P9・10)

- ・設備投資を実施した(する)企業の割合は50%で、前回(49%)から1ポイント上昇し、7四半期ぶりに50%を上回った。
- ・主な投資内容(複数回答)は、「生産・営業用設備の更新」(41%)が最も多く、次いで「生産・営業用設備の新規導入」(31%)、「車両の購入」(26%)であった。

【お問い合わせ先】(株)しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 高橋 (TEL:077-526-0005)

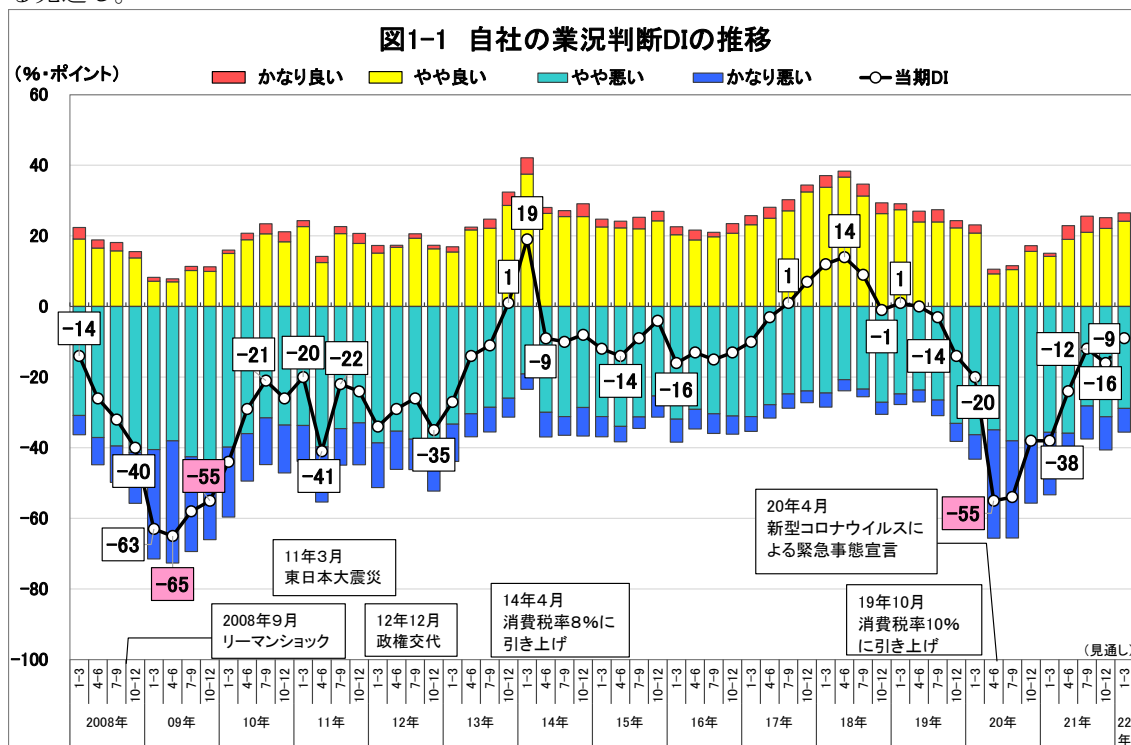
## 1. 自社の業況判断

(1) 自社の業況判断DI…製造業は3ポイント上昇し、3四半期連続で回復、  
非製造業は9ポイント低下、全体は4ポイント低下の-16

### ①全体の動向 (図1-1)

今回調査(21年10-12月期)での自社の業況判断DIは-16で、前回(21年7-9月期)の-12から4ポイント低下した。新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の緊急事態宣言などが9月末で全面解除されたものの、その悪影響が長引き、全国で初めて緊急事態宣言が発出された20年4-6月期以来、1年半ぶりに景況感は悪化した。

3カ月後(22年1-3月期)は、全体で7ポイント上昇の-9となり、マイナス幅は縮小する見通し。



### ②業種別の動向 (図1-2、表1-1)

業種別にみると、製造業は、前回の-6から3ポイント上昇の-3で、3四半期連続で回復した。一般機械(+15→+33)などでプラス幅が拡大し、木材・木製品(-14→+67)や化学(-10→+18)はマイナス水準からプラス水準に転じ、食料品(-60→-33)や繊維(-54→-35)はマイナス幅が縮小。一方、電気機械(+27→-11)や金属製品(+5→-5)はプラス水準からマイナス水準となり、その他の製造業(-8→-16)はマイナス幅が拡大した。3カ月後(22年1-3月期)は、2ポイント上昇の-1となる見通し。

非製造業は、前回の-17から9ポイント低下の-26で、6四半期ぶりの悪化となった。運輸・通信(+8→+10)以外のすべての業種で前回から低下した。不動産(+36→+23)はプラス幅が縮小、その他の非製造業(0→-9)はもちあいからマイナス水準となり、小売(-25→-64)や卸売(-40→-46)など、多くの業種でマイナス幅が拡大。3カ月後は、10ポイント上昇の-16となる見通し。

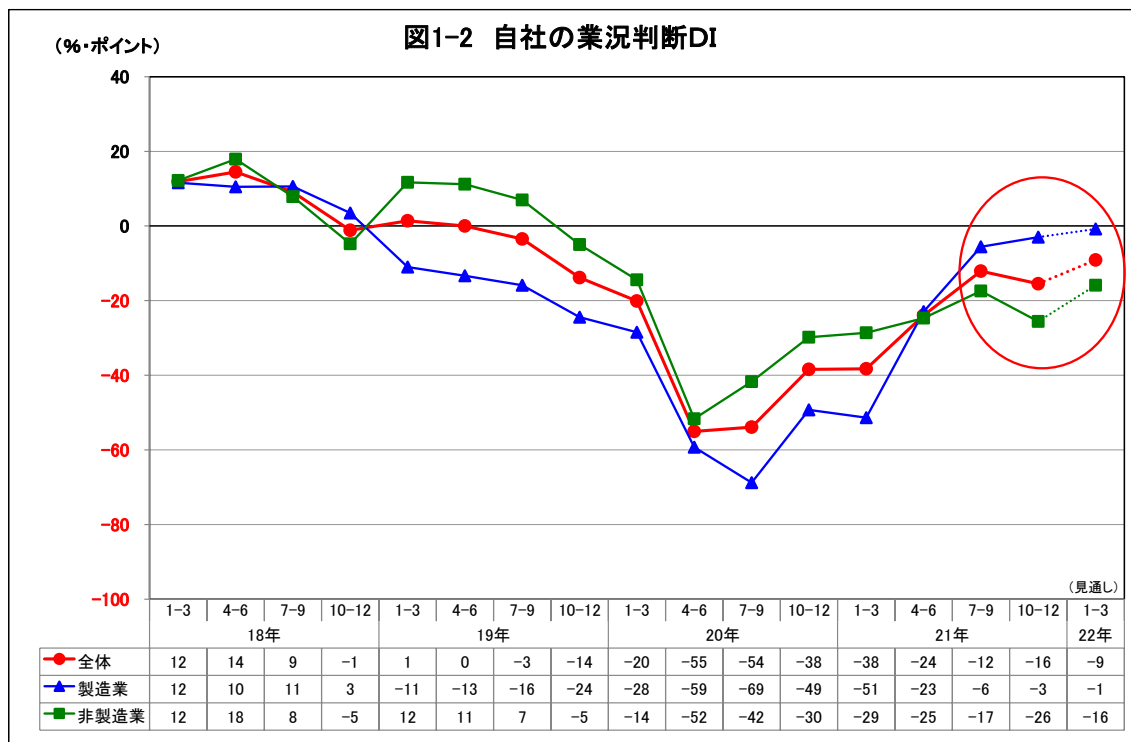


表1-1 自社の業況判断DI(業種別)

業種(※1)	今回の回答社数	21年 7-9月期 前回	21年 10-12月期 今回(※2)	22年 1-3月期 見通し
<b>全体</b>	<b>298</b>	<b>-12</b>	<b>-16 ( -18 )</b>	<b>-9</b>
<b>製造業</b>	<b>134</b>	<b>-6</b>	<b>-3 ( -10 )</b>	<b>-1</b>
繊維	17	-54	-35 ( -46 )	-35
木材・木製品	6	-14	67 ( -43 )	17
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	11	-10	18 ( -11 )	9
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	×	×	×	×
鉄鋼	×	×	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食料品	9	-60	-33 ( -40 )	-11
金属製品	21	5	-5 ( -15 )	0
一般機械	9	15	33 ( 15 )	-11
電気機械	9	27	-11 ( 9 )	-11
輸送用機械	×	×	×	×
精密機械	×	×	×	×
その他の製造業	31	-8	-16 ( -5 )	6
<b>非製造業</b>	<b>164</b>	<b>-17</b>	<b>-26 ( -25 )</b>	<b>-16</b>
建設	52	-14	-15 ( -30 )	-23
不動産	13	36	23 ( 36 )	15
卸売	22	-40	-46 ( -41 )	-18
小売	25	-25	-64 ( -20 )	-16
運輸・通信	10	8	10 ( -8 )	20
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	25	-30	-32 ( -31 )	-24
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	11	0	-9 ( -25 )	-9

(※1) 回答数が5社以下の業種は非表示(×)

(※2) ( )内の数値は前回調査時点での10-12月期の見通し

(2)前年同期を100とした売上高…非製造業の売上は前年を下回る(表1-2)

前年同期を100とした売上高を業種別にみると、21年7-9月期(確定分)は製造業で104.7、非製造業は94.0、全体では99.0となった。10-12月期の見込みは、製造業が100.0で4.7ポイント低下、非製造業が101.5で7.5ポイント上昇、全体では100.8で1.8ポイント上昇する見通しである。

表1-2 前年同期を100とした売上高(業種別)

業種	今回の回答社数	21年4-6月期 前回	21年7-9月期(確定分) 今回(※)	21年10-12月期 見込み
<b>全体</b>	<b>300</b>	<b>104.6</b>	<b>99.0 ( 99.3 )</b>	<b>100.8</b>
<b>製造業</b>	<b>134</b>	<b>110.3</b>	<b>104.7 ( 104.7 )</b>	<b>100.0</b>
繊維	17	99.0	98.4 ( 92.4 )	94.0
木材・木製品	6	99.3	114.0 ( 98.5 )	104.3
紙・パルプ	×	×	×	×
化学	11	115.9	107.7 ( 107.6 )	104.7
石油・石炭	×	×	×	×
窯業・土石	×	×	×	×
鉄鋼	×	×	×	×
非鉄金属	×	×	×	×
食料品	9	106.0	88.0 ( 94.8 )	93.1
金属製品	21	114.7	105.3 ( 105.1 )	95.3
一般機械	9	102.5	128.6 ( 98.3 )	116.1
電気機械	9	123.6	124.4 ( 131.8 )	103.2
輸送用機械	×	×	×	×
精密機械	×	×	×	×
その他の製造業	31	105.1	96.7 ( 103.3 )	97.9
<b>非製造業</b>	<b>166</b>	<b>99.2</b>	<b>94.0 ( 94.3 )</b>	<b>101.5</b>
建設	53	88.3	93.8 ( 86.7 )	94.8
不動産	13	105.7	92.3 ( 94.4 )	98.6
卸売	22	97.1	97.4 ( 94.9 )	105.1
小売	25	103.2	89.0 ( 96.7 )	123.9
運輸・通信	10	94.6	97.5 ( 95.3 )	100.3
電気・ガス	×	×	×	×
サービス	26	108.7	91.1 ( 98.2 )	91.9
リース	×	×	×	×
その他の非製造業	11	107.1	103.5 ( 103.0 )	104.9

(※1) 回答数が5社以下の業種は非表示(×)

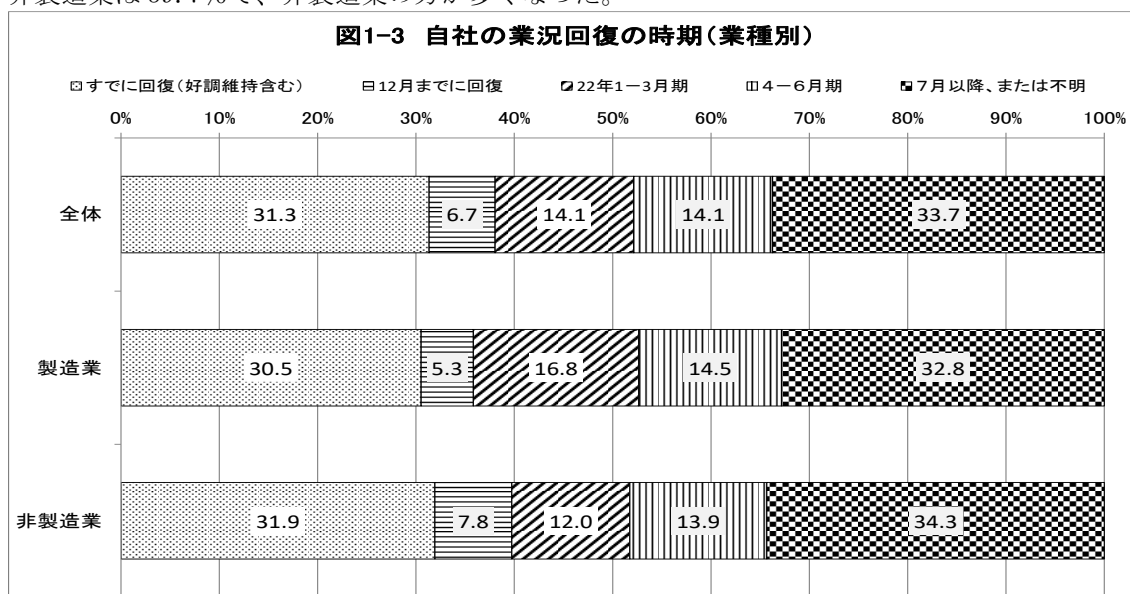
(※2) ( )内の数値は前回調査時点での7-9月期の見通し

(3)業況回復の時期…「12月までに回復」(すでに回復を含む)が4割弱(図1-3)

自社の業況回復の時期をみると、「12月までに回復」(すでに回復を含む)が4割弱(38.0%)で、前回(「9月までに回復」(すでに回復を含む)、41.1%)より3.1ポイント減少した。一方、半年以上先の「22年7月以降」(不明を含む)は33.7%で、前回(「22年4月以降」(不明を含む)、37.2%)より3.5ポイント減少した。

業種別では、「12月までに回復」(すでに回復を含む)した企業の割合は、製造業が35.8%、非製造業は39.7%で、非製造業の方が多くなった。

図1-3 自社の業況回復の時期(業種別)



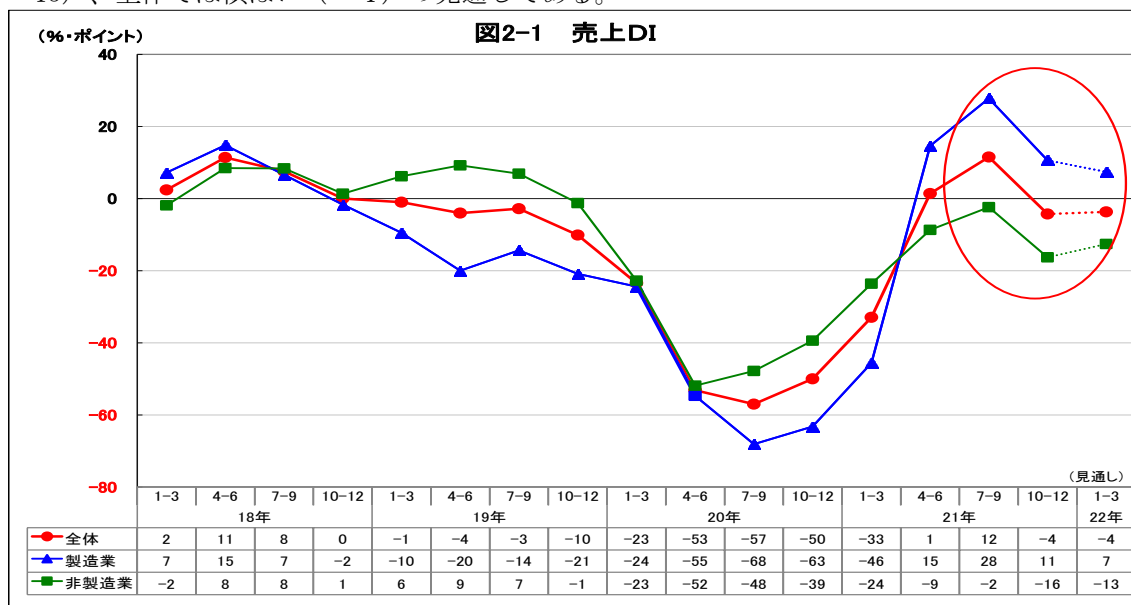
## 2. その他の判断項目

### (1) 売上DI…16ポイント低下し、3四半期ぶりにマイナス水準(図2-1)

現在の売上DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は-4で、前回の+12から16ポイント低下し、3四半期ぶりにマイナス水準となった。

業種別では、製造業(+28→+11)は17ポイント低下、非製造業(-2→-16)も14ポイント低下した。

3カ月後は、製造業は4ポイント低下(+11→+7)、非製造業は3ポイント上昇(-16→-13)、全体では横ばい(-4)の見通しである。

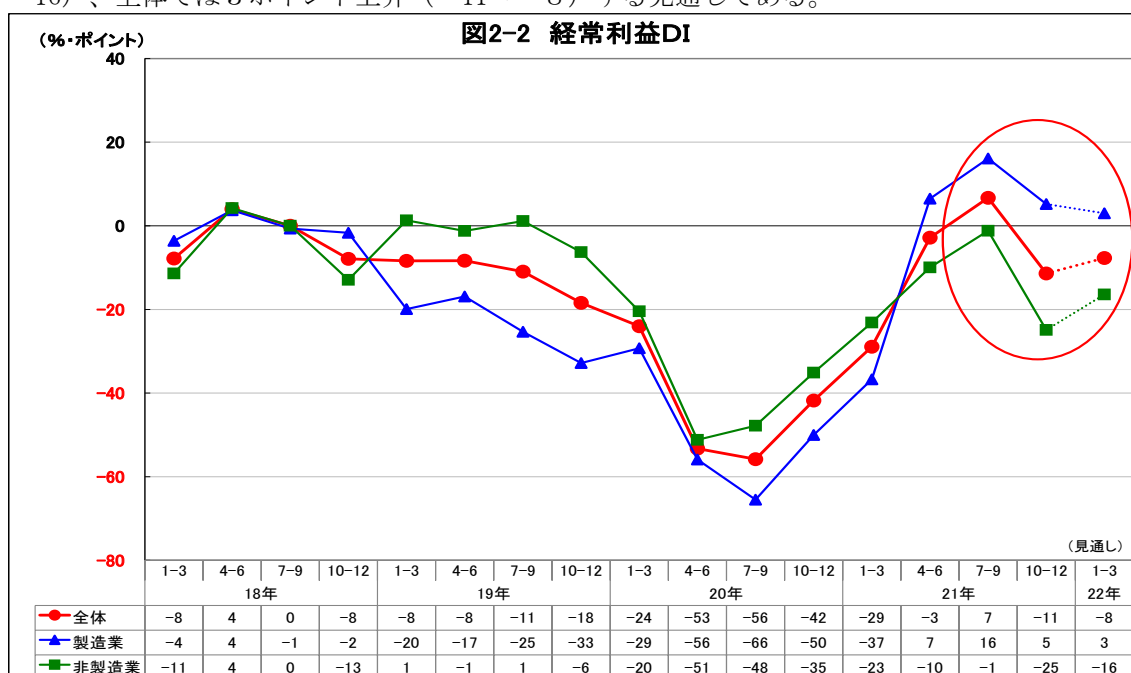


### (2) 経常利益DI…18ポイント低下し、2四半期ぶりのマイナス水準(図2-2)

現在の経常利益DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は-11で、前回(+7)から18ポイント低下し、2四半期ぶりのマイナス水準となった。

業種別にみると、製造業(+16→+5)は11ポイント低下、非製造業(-1→-25)も24ポイント低下した。

3カ月後は、製造業は2ポイント低下(+5→+3)、非製造業は9ポイント上昇(-25→-16)、全体では3ポイント上昇(-11→-8)する見通しである。

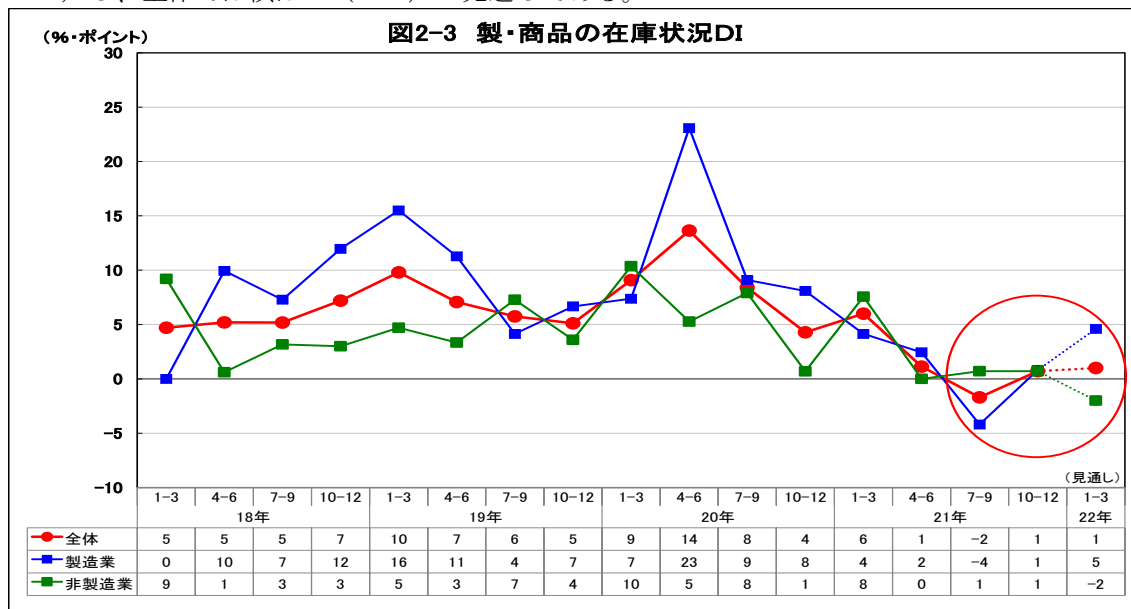


### (3) 製・商品の在庫状況DI…3ポイント上昇し、過大に転じた(図2-3)

現在の製・商品の在庫状況DI（「過大」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は+1で、前回（-2）から3ポイント上昇し、過大に転じた。

業種別にみると、製造業（-4→+1）は5ポイント上昇した。繊維（+8→-13）などで不足感が強まったが、化学（-40→0）は不足感が解消、木材・木製品（+29→+60）などで過大感が強まった。非製造業（+1）は横ばいとなった。その他の非製造業（0→-11）などで不足感が強まり、サービス（-7→+5）や卸売（+20→+27）などの過大感は強まった。

3カ月後は、製造業は4ポイント上昇（+1→+5）、非製造業は3ポイント低下（+1→-2）し、全体では横ばい（+1）の見通しである。

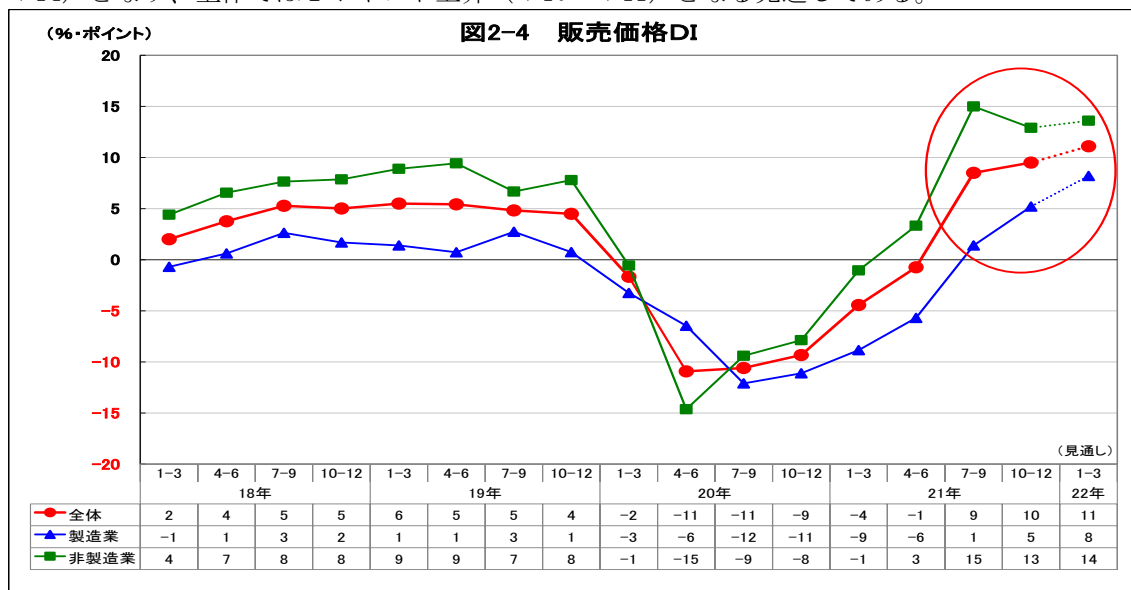


### (4) 販売価格DI…1ポイント上昇し、2四半期連続のプラス水準(図2-4)

現在の販売価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は+10で、前回（+9）から1ポイント上昇し、2四半期連続のプラス水準となった。

業種別にみると、製造業（+1→+5）は4ポイント上昇した。木材・木製品（+29→+50）、繊維（-8→+12）などは上昇、一般機械（0→-11）などは低下した。非製造業（+15→+13）は2ポイント低下した。その他の非製造業（+10→+30）、卸売（+23→+29）などは上昇、サービス（+20→+12）などは低下した。

3カ月後は、製造業は3ポイント上昇（+5→+8）、非製造業も1ポイント上昇（+13→+14）となり、全体では1ポイント上昇（+10→+11）となる見通しである。



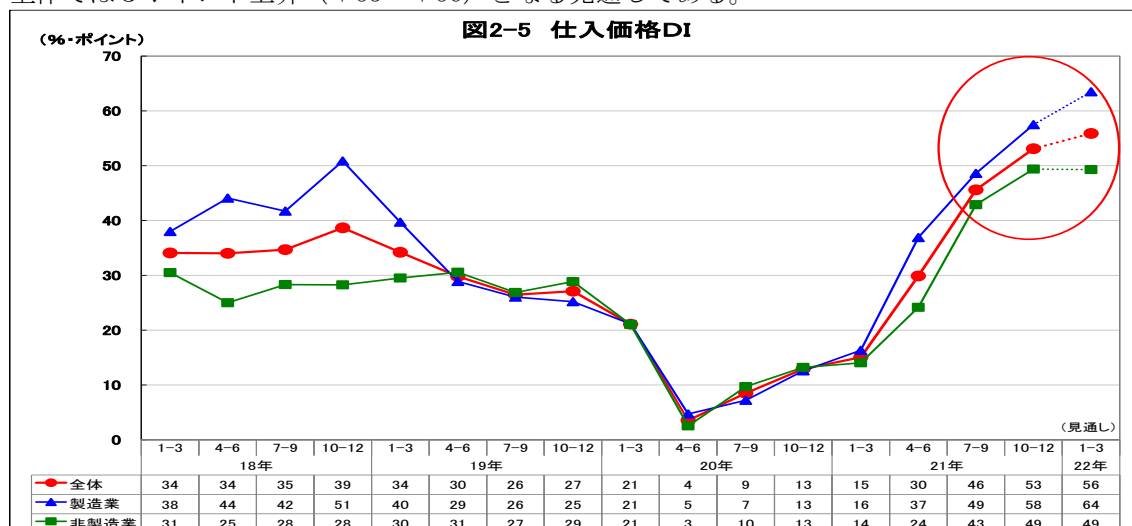


**(5) 仕入価格DI…7ポイント上昇し、08年7-9月期に次ぐ高水準(図2-5)**

現在の仕入価格DI(「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値)は+53で、前回(+46)から7ポイント上昇し、08年7-9月期(+64)に次ぐ高水準となった。

業種別にみると、製造業(+49→+58)は9ポイント上昇した。木材・木製品(+57→+100)、化学(+40→+64)などで上昇、電気機械(+55→+44)、金属製品(+60→+57)などで低下した。非製造業(+43→+49)は6ポイント上昇した。建設(+54→+67)、小売(+43→+56)など多くの業種で上昇、一方、不動産(+50→+23)のみが低下した。

3カ月後は、製造業は6ポイント上昇(+58→+64)、非製造業は横ばい(+49)となり、全体では3ポイント上昇(+53→+56)となる見通しである。

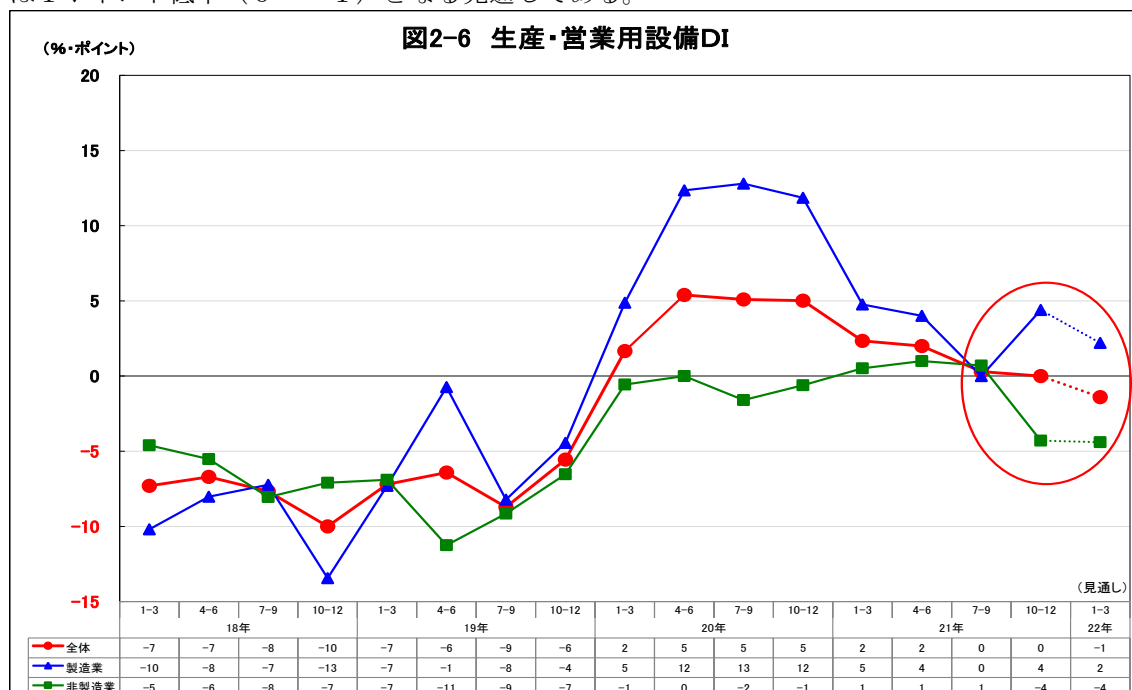


**(6) 生産・営業用設備DI…2四半期連続のもちあい(図2-6)**

現在の生産・営業用設備DI(「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は0で、前回から横ばいとなり2四半期連続のもちあいとなった。

業種別にみると、製造業(0→+4)は4ポイント上昇した。繊維(+15→+29)、金属製品(0→+10)などでは過剰感が強まり、木材・木製品(0→-17)などで不足感が強まった。非製造業(+1→-4)は5ポイント低下。不動産(0→+8)で過剰感が強まったが、小売(-5→-20)などは不足感が強まった。

3カ月後は、製造業は2ポイント低下(+4→+2)、非製造業は横ばい(-4)、全体では1ポイント低下(0→-1)となる見通しである。

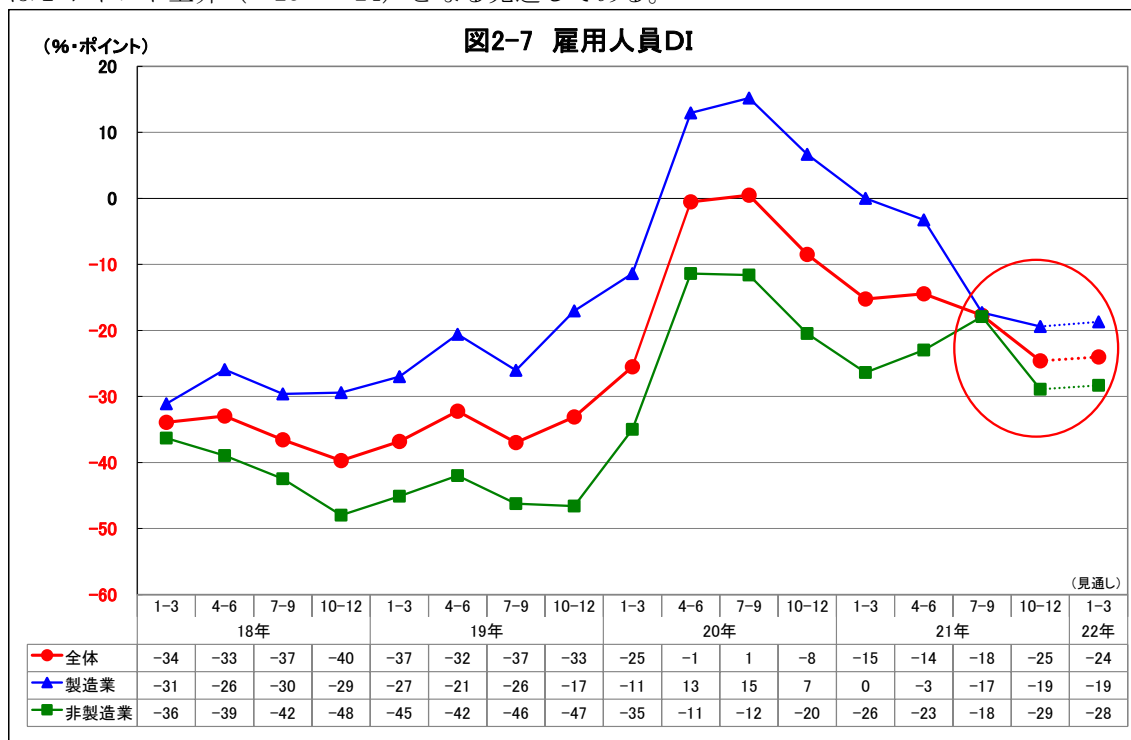


(7)雇用人員DI…5四半期連続のマイナス水準で、不足感が強まる(図2-7)

現在の雇用人員DI(「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値)は-25で、前回(-18)より7ポイント低下し、5四半期連続でマイナス水準となり、不足感が強まった。

業種別にみると、製造業(-17→-19)は2ポイント低下した。食料品(+10→0)では過剰感が解消、木材・木製品(0→-33)や一般機械(-8→-22)、金属製品(-15→-24)など多くの業種で不足感が強まった。非製造業(-18→-29)は11ポイント低下し、不足感が強まっている。運輸・通信(0→+10)のみ過剰となったが、建設(-50→-59)をはじめ、その他の非製造業(-25→-36)や卸売(+7→-18)、小売(-5→-16)など、ほとんどの業種で不足感が強まっている。

3カ月後は、製造業は横ばい(-19)、非製造業は1ポイント上昇(-29→-28)、全体では1ポイント上昇(-25→-24)となる見通しである。





### 3. 設備投資の実施状況

#### (1) 設備投資の実施割合…7四半期ぶりに50%を上回る(図3-1、表2)

今期(21年10-12月期)に設備投資を実施した(する)企業の割合は50%で、前回(21年7-9月期)49%から1ポイント上昇し、7四半期ぶりに50%を上回った。

業種別にみると、製造業は50%で、前回(52%)から2ポイント低下した。木材・木製品(0%→50%)などは上昇したが、繊維(62%→29%)、電気機械(64%→44%)などは低下した。非製造業は50%で、前回(47%)から3ポイント上昇した。その他の非製造業(25%→55%)、サービス(45%→64%)などで上昇したが、建設(55%→42%)などで低下した。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業が48%、非製造業が39%、全体では43%となり、再び50%を下回る見通しである。

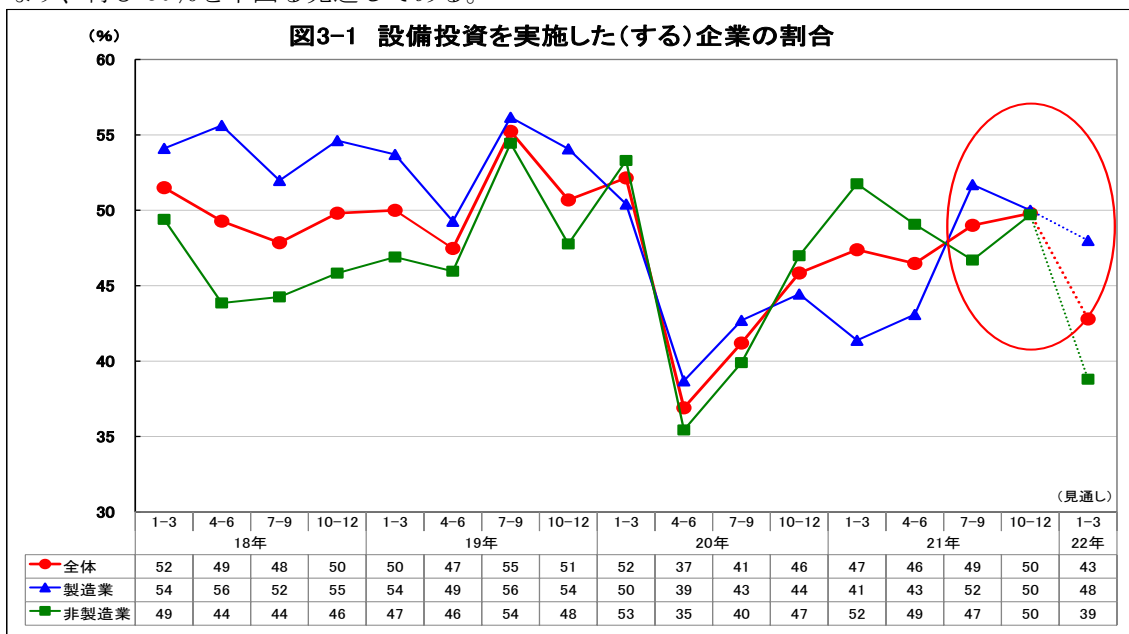


表2 設備投資を実施した(する)の企業の割合(業種別詳細) (%)

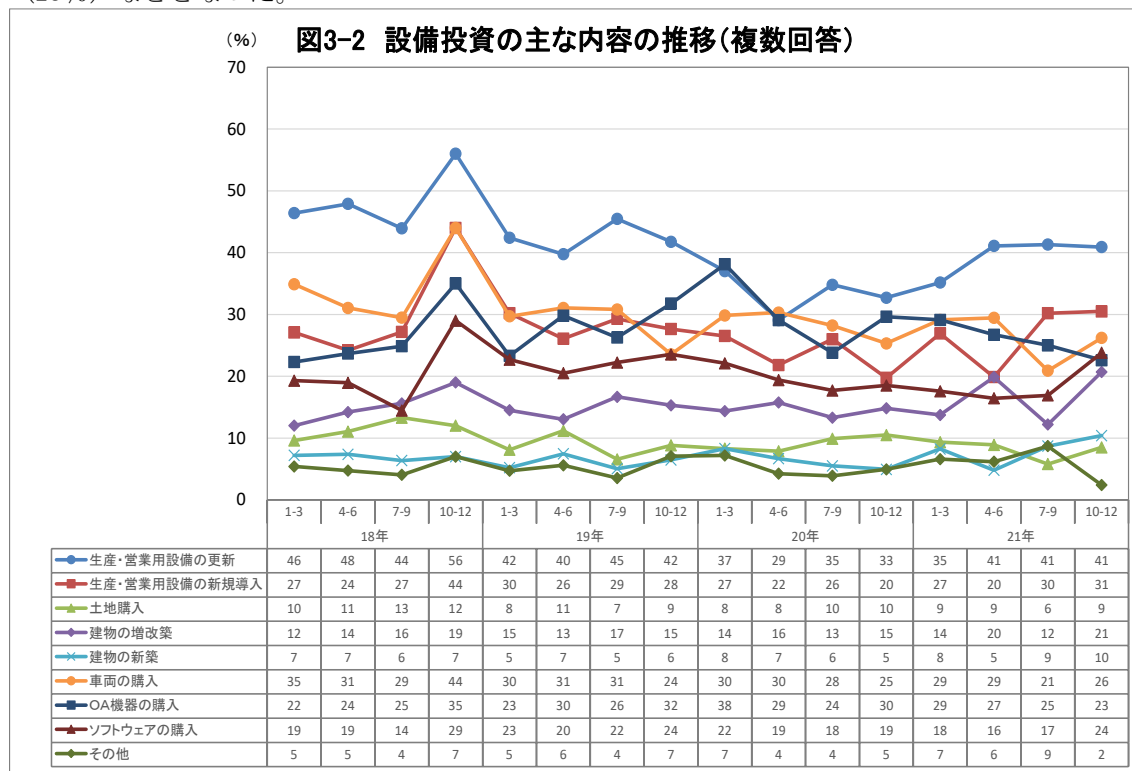
業種(※)	21年 7-9月期 前回	21年 10-12月期 今回	22年 1-3月期 見通し
<b>全体</b>	<b>49</b>	<b>50</b>	<b>43</b>
<b>製造業</b>	<b>52</b>	<b>50</b>	<b>48</b>
繊維	62	29	44
木材・木製品	0	50	33
紙・パルプ	×	×	×
化学	80	64	60
石油・石炭	×	×	×
窯業・土石	×	×	×
鉄鋼	×	×	×
非鉄金属	×	×	×
食料品	60	56	38
金属製品	55	60	42
一般機械	46	56	38
電気機械	64	44	33
輸送用機械	×	×	×
精密機械	×	×	×
その他の製造業	34	42	52
<b>非製造業</b>	<b>47</b>	<b>50</b>	<b>39</b>
建設	55	42	28
不動産	36	39	23
卸売	35	50	48
小売	52	52	42
運輸・通信	58	60	50
電気・ガス	×	×	×
サービス	45	64	64
リース	×	×	×
その他の非製造業	25	55	18

(※) 回答数が5社以下の業種は非表示

(2) 設備投資の主な内容…「生産・営業用設備の更新」が6四半期連続で最多

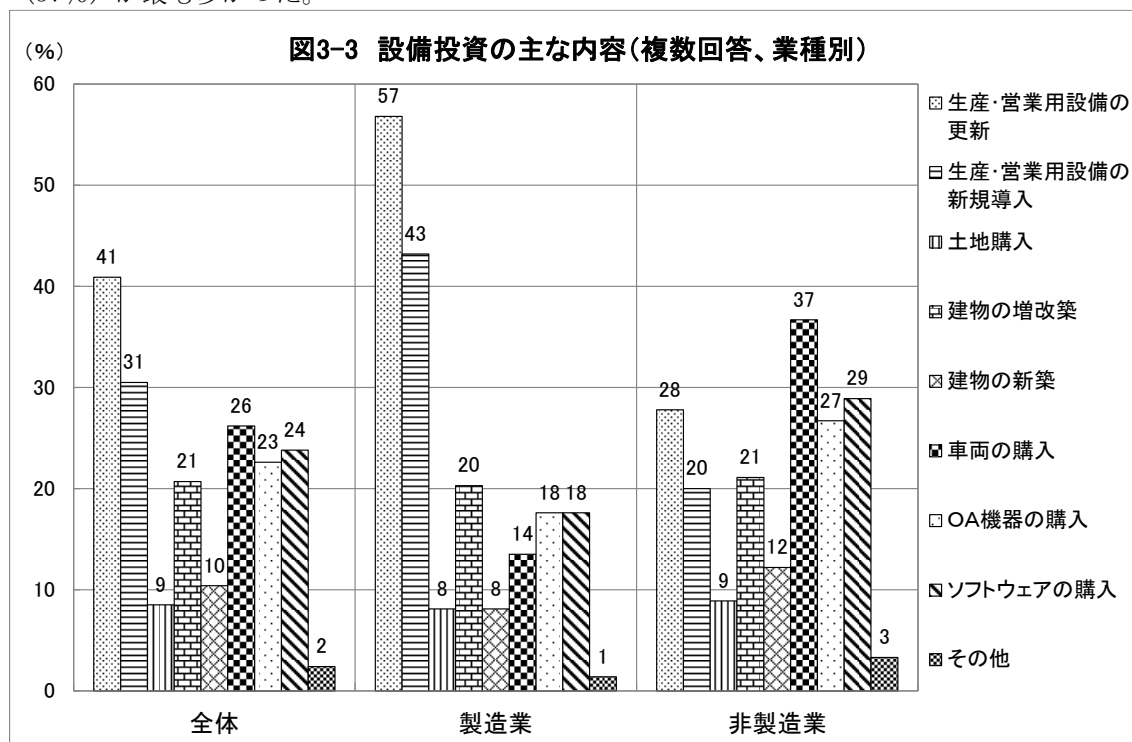
① 全体の動向 (図3-2)

設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容をみると(複数回答)、「生産・営業用設備の更新」(41%)が最も多くなり、次いで「生産・営業用設備の新規導入」(31%)、「車両の購入」(26%)、「ソフトウェアの購入」(24%)、「OA機器の購入」(23%)などとなった。



② 業種別の動向 (図3-3)

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(57%)、非製造業は「車両の購入」(37%)が最も多かった。



【参考資料】

1. 現在の業況判断の根拠となる具体的な理由や背景（一部抜粋）

【製造業】

「良い」（かなり良い＋やや良い）

業種	事象
紙・パルプ	・関連会社よりの受注が好調。
化学	・海外のロックダウンで客先の注文が増加。 ・半導体部品が好調。自動車の見通しは依然不透明。 ・期首計画より受注増加が毎月続いている。 ・原油価格の高騰が再生燃料油の販売価格を押し上げている。
食料品	・新型コロナの終息方向。
金属製品	・メイン受注先からの受注好調。
電気機械	・センサーの需要が高まっているため、売上10%アップ。
精密機械	・製薬メーカー向けの機械部品受注の増加、また梱包メーカー用部品の受注増で業況は良い。 ・半導体不足の影響により、自動車向け製品の生産は減少したが、産業機械向け製品が好調。
その他の製造業	・前期の公共工事受注で売上が増加。 ・材料不足懸念の拡大により受注先での在庫増要因もあり、この先6か月は受注堅調の見通し。 ・半導体需要が好調で、その関連事業の売上が10%程度増加する見込み。 ・大手OEMの増産。

「悪い」（かなり悪い＋やや悪い）

業種	事象
繊維	・新型コロナの影響により、売上が減少した。また、原材料価格が高止まりしている。 ・新型コロナの影響で売上が3年前と比べて15%ほど減少した。
紙・パルプ	・原燃料の高騰。
化学	・コロナ禍で特需製品が増え売上が伸びたが、労務費が比例して増加している。
鉄鋼	・鋼材の値上がりと供給が思うようにならない。
食料品	・新型コロナの影響で9月、10月の売上が30%減少した。
金属製品	・新型コロナ、半導体供給等の影響。 ・県内製造業の操業状況の影響か、売上の伸びが芳しくない。 ・自動車関連の生産停止により、特に10月度の売上が前年比15%減少した。 ・売上が前年同期25%減。石油減産による価格高騰の影響。
電気機械	・先行が不透明のため、設備投資を控えている。 ・半導体不足および材料価格高騰などの影響。
輸送用機械	・客先の部品供給不足の為、売上が10%減少した。
その他の製造業	・円安ならびに穀物相場の高騰が大きい。 ・半導体等の部品調達難により、海外の子会社向けの原材料輸出が減少している。 ・半導体不足の影響で自動車関連部品の受注が30%減少するが、回復の兆しが少しずつ見られる。 ・新型コロナの影響で卸先の売上が30%減少した。 ・家電、建機、自動車関連の包装資材を扱っており、半導体不足による、生産減速の影響が出ている。 ・主力商品の販売が30%減少。

「滋賀県内企業動向調査 2021年10-12月期 定例項目結果」

【非製造業】

「良い」 (かなり良い+やや良い)

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の規模は大きくないが、受注件数が多い。</li> <li>・前年度の完成工事高と比較するとやや良い。</li> </ul>
小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上向上に注力。</li> </ul>
運輸・通信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上の対前年比が増加。</li> <li>・売上が若干増加。</li> </ul>
その他の非製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷凍品の売上が微増するため、10-12月期は好調。1-3月期は、例年の売り先が新型コロナによるダメージを受けている関係で売上減少の見込み。</li> <li>・2021年第3四半期(7月-9月)本業の売上高(医業収入)は13.2%増加した。</li> </ul>

「悪い」 (かなり悪い+やや悪い)

業種	事象
建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は前期より繰越工事が少なかったため、売上予想額が減少した。また、利益率が低い工事が多く、近年では最も悪い収益状況となっている。</li> <li>・民間受注の低迷で、新築・リフォームの売上が30%以上減少している。</li> <li>・新型コロナの影響で企業の設備投資が止まり、売上が50%減少。</li> <li>・公共工事の受注減。</li> <li>・土木部門の官工事については、国・県の予算がついており堅調に推移するも、建築部門の民間工事が新型コロナの影響があり苦戦している。</li> <li>・鋼材が品薄で手に入りづらく、受注もしにくい。受注物件の減少が続いている。</li> <li>・新型コロナの影響で9、10月の売上が約30%減少。</li> <li>・客先の設備投資が低迷しており、売上が減少。また、受注しても受注金額が低く、利益が減少。</li> <li>・手持工事の受注状況や利益状況が悪化。主要材料の仕入価格が上昇している。</li> <li>・新型コロナの影響か、客の思いと金額の折り合いがつきにくく、契約にいたらなかったり、長引いたりしている。</li> </ul>
卸売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウッドショック」の影響で、仕入価格が約25～30%上昇した。</li> <li>・一定の出荷予定はあるものの出荷量はコロナ前より減少し、すべてのプロセスが回復するには今しばらく時間を要す。</li> <li>・半導体不足の影響で商品入荷が大幅に遅れている。</li> <li>・コロナ禍で、ホテルや飲食店などの業務店向けの飲食(特に酒類)の販売が減少。</li> <li>・新型コロナの影響から物流が回復しきらないと考えている。雪もあまり積もらないと予想している。</li> <li>・新型コロナ、半導体不足、売上5%減。</li> </ul>
小売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年に比べ新型iPhoneの販売台数が少なく、その影響が売上に大きく出ている。</li> <li>・新型コロナの影響の大きさは大変であると感じており、さらに利益率の低下が重なっている。</li> <li>・中国の電力不足の影響で生産スケジュールが遅れ、販売機会のロスが発生し、売上に影響している。</li> <li>・原油高。</li> <li>・新型コロナの影響で生花の売上が10%減少した。</li> <li>・原油、ガスの仕入価格高騰により粗利が低下。</li> <li>・新型コロナの影響で観光地の売上が30%程減少していたが、少しずつ回復の兆しが見える。</li> <li>・新型コロナの影響で商品が入荷しないため、売上が40%減少した。</li> <li>・緊急事態宣言による休業は解除されたが、インバウンド売上は現在も見込めず、国内消費も買い控えが続いているため、コロナ前には戻っていない。</li> <li>・主力のパイプハウスの受注が少ない。</li> </ul>
サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナの影響で、予約数が30%程減少。</li> <li>・新型コロナ「第5波」の終息の影響で、個人客の動きは戻りつつあるが、団体での動きは半分以下になっており、大変化の時代。</li> <li>・新型コロナの感染拡大防止に伴う規制は解除されているが、人の動きはまだまだ不十分で、売上はGoToがあった昨年を10%下回っている。</li> <li>・主事業が大手企業内社員食堂での食事提供業務であり、食堂利用者数の増減が業況を左右。テレワーク推進等、社会環境の変化が業況悪化の要因。</li> <li>・原油価格上昇により。</li> <li>・昨年はGoToトラベルが実施され、かなりの売上が見込めたが、今年度はGoToトラベル未実施のため、売上が15%～20%減少している。</li> <li>・少子化の影響で、写真販売の売上が20%減少した。</li> <li>・新型コロナの影響と冬期における人の流れが止まる閑散期で、20%は売上が減少すると予想する。</li> </ul>
リース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手レンタル企業の攻勢により、レンタル機稼働率が減少。</li> </ul>
その他の非製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動車メーカーからの受注減(半導体物流の影響)。</li> </ul>

2. DI回答一覧(業種別)

項目	業況判断DI				売上				仕入価格				販売価格			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	21年 7-9	21年 10-12	21年 10-12	22年 1-3	21年 7-9	21年 10-12	21年 10-12	22年 1-3	21年 7-9	21年 10-12	21年 10-12	22年 1-3	21年 7-9	21年 10-12	21年 10-12	22年 1-3
調査時期	7-9	10-12	10-12	1-3	7-9	10-12	10-12	1-3	7-9	10-12	10-12	1-3	7-9	10-12	10-12	1-3
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	-12	-18	-16	-9	12	-8	-4	-4	46	42	53	56	9	10	10	11
製造業	-6	-10	-3	-1	28	5	11	7	49	47	58	64	1	8	5	8
繊維	-54	-46	-35	-35	23	-8	-24	12	54	39	71	65	-8	0	12	12
木材・木製品	-14	-43	67	17	29	0	100	-17	57	57	100	83	29	29	50	0
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	-10	-11	18	9	60	0	45	45	40	40	64	73	10	20	0	27
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-60	-40	-33	-11	20	-30	-45	22	50	50	67	78	0	-10	0	11
金属製品	5	-15	-5	0	40	15	29	10	60	50	57	57	5	5	19	5
一般機械	15	15	33	-11	15	0	22	-22	62	54	78	78	0	0	-11	0
電気機械	27	9	-11	-11	18	0	11	-22	55	55	44	56	-18	0	-11	0
輸送用機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	-8	-5	-16	6	13	5	-10	3	34	45	42	58	0	13	-3	-3
非製造業	-17	-25	-28	-16	-2	-18	-16	-13	43	38	49	49	15	12	13	14
建設	-14	-30	-15	-23	-35	-51	-23	-38	54	47	67	63	2	7	-4	0
不動産	36	36	23	15	18	-9	15	0	50	40	23	31	27	27	23	15
卸売	-40	-41	-46	-18	-4	-17	-5	9	48	45	57	71	23	17	29	48
小売	-25	-20	-64	-16	14	15	-32	-4	43	33	56	60	24	10	28	24
運輸・通信	8	-8	10	20	0	0	-10	40	44	44	50	50	0	0	0	0
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	-30	-31	-32	-24	3	-12	-23	-19	21	21	22	22	20	13	12	8
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	0	-25	-9	-9	54	8	0	-9	22	25	22	11	10	11	30	20

項目	経常利益				製・商品の在庫				生産・営業用設備				雇用人員			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	21年 7-9	21年 10-12	21年 10-12	22年 1-3	21年 7-9	21年 10-12	21年 10-12	22年 1-3	21年 7-9	21年 10-12	21年 10-12	22年 1-3	21年 7-9	21年 10-12	21年 10-12	22年 1-3
調査時期	7-9	10-12	10-12	1-3	7-9	10-12	10-12	1-3	7-9	10-12	10-12	1-3	7-9	10-12	10-12	1-3
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
全体	7	-7	-11	-8	-2	-1	1	1	0	0	-0	-1	-18	-18	-25	-24
製造業	16	4	5	3	-4	-6	1	5	0	3	4	2	-17	-14	-19	-19
繊維	8	8	-19	0	8	8	-13	6	15	15	29	24	0	8	-6	-12
木材・木製品	0	0	83	-17	29	0	60	20	0	0	-17	-33	0	-14	-33	-50
紙・パルプ	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
化学	70	0	27	9	-40	-20	0	0	-10	0	-9	-9	-20	0	-27	-18
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
鉄鋼	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
非鉄金属	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
食料品	-10	-10	-22	-11	0	-10	-11	22	10	10	0	22	10	0	0	0
金属製品	50	20	33	10	5	0	5	10	0	0	10	10	-15	-10	-24	-19
一般機械	-15	-23	11	22	8	8	22	0	0	8	0	11	-8	-23	-22	-22
電気機械	27	18	0	-11	-18	-18	0	0	18	18	11	0	-46	-36	-44	-33
輸送用機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
精密機械	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の製造業	3	-5	-16	7	-11	-13	-7	0	-8	3	0	-3	-24	-13	-13	-13
非製造業	-1	-17	-25	-16	1	3	1	-2	1	-3	-4	-4	-18	-21	-29	-28
建設	-26	-40	-27	-31	5	5	-2	-4	2	0	-4	-4	-50	-48	-59	-59
不動産	45	9	8	15	-36	-9	-8	-8	0	-18	8	8	0	-9	-8	-15
卸売	-20	-33	-5	-5	20	17	27	32	7	0	0	-5	7	0	-18	-14
小売	14	5	-60	-28	0	5	-4	-8	-5	-5	-20	-16	-5	-10	-16	-20
運輸・通信	0	-8	-20	20	0	-10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	9	-6	-23	-8	-7	4	5	-5	-3	0	-4	-4	-16	-22	-12	-12
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	46	17	0	-18	0	-11	-11	-22	0	-10	0	0	-25	-25	-36	-18

※ 回答数が5社以下の業種は非表示 (Xと表示)